

# 立命電友会

## 立命電友会

### 会長就任にあたって

南 能 寿

(昭和四十二年卒)



私は去る平成二十年六月二十一日(土)にホテルグランヴィア京都に於いて開催されました第五回立命電友会総会に於きまして、ご出席の皆様方のご推挙により第五代目の【立命電友会会長】に選出されました。

向こう四十年にわたり、その大役に就くことになりましたので、ここに会員の皆様方にご挨拶を申し上げます。

また会則により会長推薦されま

した副会長、幹事、会計監事の皆様方、会長委嘱による顧問の皆様方にも向こう四十年の活動宜しくお願ひ申し上げます。

さて本会は初代得田会長様から、池田会長様、加納会長様、荒木会長様の過去四代に渡りましての歴代会長様には立命電友会発展のため、並々ならぬご尽力を賜りました事、厚く御礼申し上げます。

振り返りますれば今から十数年前に立命電友会設立に向けて設立委員の一人として衣笠学舎の方に何度通ったことか...:ようやく設立に漕ぎ着けたことが、今では懐かしく想い出され、こんにちこの発展した立命電友会を思いますと、産みの親の一人として感慨にたえません。

その後、立命電友会の活動に长年取り組んでまいりましたが、そ

の努力を認めて頂いた結果が、会長推薦にも繋がったものかと思ひ光栄に思っております。

また立命電友会会報第三十三号にして初めて第一面に氏名と写真掲載して頂く名譽に預かりましたことも喜びにたえません。

大学の前身であります電気工学講習所の開設以来、電気工学関連の卒業生が一万二千名余りと言う大所帯になり、東京方面では『関東立電会』、関西では『大阪立電会』、九州の方では『電友会九州・沖繩支部』など、各地域での活発な同窓活動が見受けられ嬉しいかぎりです。

このような未来ある同窓組織の『立命電友会』をお預かりすることとは、私にとりましても望外のことでもありましたが、今はただこの重責に身の引き締まる思いでございます。

私は本年で六十五才になり前期高齢者のお仲間入りさせて頂きました。現在は週の前半を大阪のコンピュータ学院、工業技術専門学校、情報専門学校に於いて、後半は京都の高校のほうで電気・電子工学を中心にCAD、自動制御、電気工事、電気通信、無線工学等の講義と実習、他関連資格試験の指導、教授するいわゆる非常勤講師をしながら一週間を過ごしております。

其の他に電気の状態試験委員を拝命しております、関連国家試験の監督、また学園祭での学術講演、工業高校での講演、企業の研修所での講師、本年の春先からは

厚生労働省所管のJOBカフェOSSAKAより電気主任技術者試験の講師依頼も承っております、これも立命館大学理工学部電気工学科を卒業したおかげだと思ひ感謝しております。

現役時代には政府ODA予算関連の関係で度々海外出張をしまして、長期(三ヶ月から六ヶ月)ではシリア、インド、中国、タイ等、短期ではドイツ、イギリス、スイス、スペイン、フランス、イタリア、旧ソ連、アメリカ、台湾、韓国等々をスーパーバイザーとして飛び廻ったこともありまして。その間にコンピュータと英語力を身につけることが出来、自分でもこのグローバルな時代によく溶け込めたものだと思ひしております。

学生時代は自分の怠慢から余り勉強に力もいれず、今思うとよく卒業出来たなと自分でも感心しております。卒業研究担当の今は亡き井上勲夫先生から「君は四年間何を勉強して来たんだね?」と云われ、肝を冷した事もありましたが、先生の温情で無事卒業出来ました、爾来勉強に励み電気関連も含め資格・免許を二十近くとりまして、現在は生涯学習として社会貢献の意味も込め、今までの学力、経験、経歴、取得資格等を生かし、若い学生、生徒達に指導、教授しながら第二の人生を謳歌しております。

私の父は以前、政府より勲三等の名譽ある勲章を戴きまして、社会貢献の大切さを教えられました。私自身は父の足元にも及びませんが、今まで生きてきたことへの恩返しとして、現在の第二の人生生活に更に今回ご推挙戴きました名譽ある会長職を加え、これを私の人生の集大成として頑張っていく所存です。

我が立命館大学の理工系の学部におきましては、四学部二十学科を擁する日本有数の大学組織となり、その変貌ぶりは他に類を見ない世間の注目の的となっております。それと並行してこの立命電友会も立派に成長してまいりました。私はこの立命電友会をこれからも益々発展させ、更に開かれた、そして魅力ある立命電友会としての組織作りにも全力を尽くして邁進したいと思っております。

最後に私の会長としてのお願ひがございます。

奇しくも私の任期最後の年が、立命電友会設立二十周年記念大会が開催される予定であります。この節目となる記念大会を会員の皆様、大学関係者の方々と共に盛大に祝い、成功裏に次の会長様に引き渡したいと思っております。先のお話になるかとは思いますが、役員の皆様、会員の皆様におかれましては、今からこの大会についての啓蒙活動に心配りして頂き、また会員諸士の多数のご参加をお願いして筆を置きたいと思ひます。

会員各位のご健勝と母校立命館大学の益々の発展を併せて祈念しております。今後とも温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 辻村・前田研究室同窓会

## (卒業研究室同窓会の紹介)

### 山下正之

(立命電友会副会長 昭和四十一年卒)

私が、電気工学科を卒業して以来、早いもので四十三年間が過ぎました。この間、六十五才迄、昇降機関係の業務に従事してきました。

辻村寛先生、前田稔夫先生が指導された卒業研究室の同窓会です。(現在は、後述のとおり、浦山研究室同窓会と合同で開催しています。)

平成二十年六月二十一日、立命電友会第五回総会が、百五十名を超える参加者により、盛大に開催され、皆様も旧交を温められたことと存じます。立命館大学の躍進とともに、立命電友会の活動の活発化を大変嬉しく思っています。これは事務局の方々のご苦勞の賜と深く感謝しております。立命電友会の活発化の重要な課題の一つとして、同期会、卒業研究室及び各種グループ等の同窓会の結成と活動促進があると思います。

本文は、同窓会結成の基礎をつくられたスタート時のメンバーで、現同窓会会長である昭和五十年卒の藤井力広さんに書いていただくのがよいのではと思いましたが、立命電友会事務局の依頼がありましたので、初代会長である私が書かせていただきました。

多くの同窓会が、結成、開催されてきておりますが、長年において卒業年次を超えて定期的に、継続開催しております辻村・前田研究室同窓会について紹介させていただきます。これは名前のとおり、

辻村先生が、卒業研究をご指導されたのは、昭和三十五年からのことで、それ以来、辻村、前田研究室においてご指導していただいた卒業生は、約六百名ですが、残念なことに、大学紛争のときに名簿が散逸してしまい、所属していた卒業生の名前が昭和四十年ごろまでは定かではないとのことでした。しかし、その後、種々調査され判明された方々を含め、現在四百

四名が名簿に記載されております。

辻村・前田研究室同窓会は、前記の現同窓会会長である藤井力広

した。

毎年の同窓会の開催に際しては、卒業年次の異なる数名の方々に担当幹事をお願いし、辻村先生、前田先生にもご出席いただき準備幹事を数回開き、楽しい盛大な会とすべく準備しております。準備幹事会においては、その都度、福引抽選会、品物交換会及び全員の自己紹介等の催し物、若年層の負担軽減のために、卒業年次による参加費の増減等を検討しています。又、これまで十二月に定期的に開催していましたが、年末であり毎年時期的に出席できない方々もおられることも勘案して、六月と十二月に隔年毎に開催することにしております。当初より、遠方からの参加者については、旅費の一部を補助し、又宿泊の可能な会場と

数名の準備委員により、一年に亘る意見調整会を経て、平成十五年六月七、八日に第一回の辻村・前田研究室、浦山研究室合同同窓会を開催しました。参加者の承認も得られましたので、その後も合同同窓会として開催することとなりました。浦山研究室の卒業生は、二〇〇名(判明のみ)を越えており、大変大規模な同窓会となり、その運営をどうするかの問題もあります。最近の合同同窓会は、第五回立命電友会総会の日に開催しました。

ご出席の調整ができなくなってきました。この様な状況において、辻村卒業研究室同窓会も何年次卒業という枠を越えて、卒業研究室全員の同窓会を発足させてはとの提案があり、昭和五十七年、名称を辻村・前田研究室同窓会として発足させ、大所帯の同窓会組織となりました。同窓会規約も制定して、活動をより充実させました。この時、私も入れていただきました。

参加者は、毎回約六十名程度です。不参加の方には通信費等の寄付をお願いしております。次に、平成十四年ごろ、単独で開催されておりました浦山研究室同窓会と合同で同窓会を開催してはとの提案がありました。辻村先生、前田先生、浦山先生を中心

本同窓会が、長く続けられますのも、辻村先生、前田先生、浦山先生の研究室同窓会を今後とも益々盛上げようとされるご熱意の賜であると感謝している次第であります。三先生とも、定年退職され新しい仲間に入ってこなくなりましてが、現会員で未永く本会を続けていきたいものと思っております。最後になりましたが、立命電友会事務局の同窓会活動への積極的なご支援を感謝いたします。

# 私の学生時代

## 大城 博

(昭和五十九年卒)

現在、私は、神戸市役所に勤めており、市有建築物（病院、学校、卸売市場、事務所等）の電気設備に関する計画から設計、施工管理に始まり、現在は、有料道路のETC（自動料金収受システム）関係の整備計画や割引などの料金施策に関する仕事をさせてもらっております。さて、ここ数年の団塊の世代の大量退職を迎え、神戸市でも新規職員の確保が課題となっております。技術系職員の私にも母校を回って新規職員の採用試験案内をせよとの命を受け、たまたま同級生であった電子システム系電気電子工学科の高山茂教授の下を訪れ多々お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。こうしたことがきっかけとなり、今回、本会報への寄稿依頼を頂き学生時代を思い出すよい機会を与えられたことに感謝いたします。

学生時代の私は、引退する三回

生までは、主にクラブ活動に没頭してしまい、勉強面の方では、四回生になって非常に苦労しました。クラブ活動では、自動車部に在籍し、学生時代の大半の思い出がこでつくられました。

自動車部では、主にフィギア競技、ダートトラック競技、エコノミーランニング競技等がありました。たが、いずれも未だに鮮明に思い出すことができます。

- ・フィギア競技・予め決められたコースを脱輪、接触せずにスムーズに走行する競技で走行タイムと脱輪・接触及び急発進・急制動等に対する減点で順位がきまる競技。
- ・ダートトラック競技・未舗装の広場に設定されたコースを走行しゴールまでの時間を競う競技。
- ・エコノミーランニング競技・一リッターのガソリンで走れる距離を競う競技。

フィギア競技では、春に関西エリアの大学が参加する大会があり、当通常に上位に入っていました。結果、秋の全国大会に出場しそこそこの成績を収めていたような気がします。（昔のことなので詳細な戦績は忘れてしまいましたが……）

以下、自動車部一年間のイベントについての記憶を辿ってみますと……。

### 【フィギア競技会の前

一週間程度の合宿】  
終野の合宿所（今もあるのでしょうか？）にこもり厳しい練習をするのですが、朝六時から朝食前の体力強化に始まり、昼間は、ハン

ドリング練習と非常にハードであったように思います。合宿中でも、授業への出席には練習が免除されるため、この時ばかりは、授業のありがたさが身にしみました。

### 【夏休み前半の

琵琶湖の北湖畔での合宿】

この合宿は、主に体力作りが目的であったため、非常にきついのでした。朝五時ごろからの五キロメートル程度のランニングに始まり、ヒルクライム（急なぼり

坂のダッシュ）、腕立て・スクワット、最後に五〇〇m競争（下位二〜三名は、腕立て等の追加メニュー）で朝食前の練習メニューが終わりです。昼は、函館山スキー場の駐車場を借りての運転練習が始まります。運転といっても悔えること無かれ。これは、重いハンドルを延々と回し続ける練習で、手は豆だらけとなり、合宿半ばからは、手にガムテープを巻いてハンドルを握ることになります。最後に七〜八キロメートルのランニングで一日の練習終了です。

### 自動車部で以上のような三年間

練習後は、風呂代わりの琵琶湖での遊泳や、当番制で自炊した食事、就寝までの語らいなど学生時代ののみ味わうことのできるありがたい経験をさせてもらいました。

自動車部で以上のような三年間をすごした電気工学科の仲間が私を含め四名おりましたが、皆、四回生になると学業の方もなんとか頑張っており、無事に卒業し、いまは、各々の場所で活躍しておられます。

### 【夏休み後半の遠征旅行】

これは、部車（マイクロバス、ジープ）を連ねての一週間のドライブ旅行で、数々ある合宿の中で、唯一、皆が楽しみにしていたものでした。一回生の時は、北海道の北半分、二回生の時は南半分、そして、三回生のときは、九州一周をしました。

先日、この自動車部の仲間（先輩、同期）で飲む機会があり、久しぶりに顔をあわせました。職場で二〜三才の年齢差であれば同僚のような感覚であります。当時の先輩は、未だに怖い存在で、懐かしさとともに言葉使いなどの端々に先輩・後輩の縦社会が会が盛り上がるにつれ増幅していったの言うまでもないこととあります。

北海道へは、舞鶴港からフェリー

## 「出会い」

電気電子工学科教授

中西恒彦

(昭和四十一年卒)

電気電子工学科を定年退職するにあたり、小生の教職の過程で感じたことを少し述べさせて頂きます。広く一般的に揶揄されている工学屋の文章は読みづらくもあり、無味乾燥であると云われており、小生の文章もその範疇に入っていることをご承知頂き、拙文をお読み頂ければ幸いです。

この時期になって一番感ずるところとは人生の中の「出会い」だろうと思います。特に、あのとき、あの出会いが無かったら今の人生は大きく変わっていたかも知れないと。

電気との出会いは、亡父が大事にしていた電蓄(今で云うオーディオプレーヤー)だったかも知れませんが、リアパネルの中をのぞき込むと、父と私。私にとっては中身が解るはずもなく、単に眺めているだけだったのですが、真空管のヒーターが何本も光っているのが幻想的であり、いずれこんな装置を我がものにしたいと感じた記憶が残っています。高校から大学への進学の折、自身の進路を明確に持っていたわけではなく、担当教官から進

路をどのように考えているかを問われたとき、真空管ヒーターの幻想をとっさに思いつき、電気工学と呼び出したような記憶があり、これが立命館大学電気工学科との出会いです。当時、電気工学とは強電とも呼ばれ、発変電施設や回転機、送電線路などが勉学の中心であり、当初想定していた真空管とはおよそ縁のない学問分野でした。そんな中で、電探(今で云うレーダー)開発から運用に関わる逸話をお話し頂ける先生がおられ、今で云う電子工学の学問分野に傾倒していったと記憶しています。また、歪み波解析に使われるフーリエ解析のおもしろさに出会ったのもこの時期です。これもこの先生との出会いが、小生のその後の研究活動の課題に繋がっていったのです。

当然、卒業研究では電子回路関係の分野を選択し、その後の就職も電子回路設計を行っていた企業でした。この企業では先輩後輩とともにデスクトップ電子回路に携わっていた訳ですが、設計の自由度よりも人間が関与する余地が多く、回路特性よりもコスト削減

と納期短縮を強く求められました。当時の上司には好意を持って接することが出来ましたが、技術者としての不満が鬱積していた状況でした。そんな折、元の卒業研究の指導教員から、学生の指導に携わってみないかとお誘いを受けました。正直言って、企業での居心地の良さと、大学教育の堅苦しさが自身の中で相克し、転職を悩んだこともありましたが、今となっては嘘のような話です。そして、技術者としての矜持と学生という人間に接することが出来る魅力に魅せられて立命館大学理工学部へ転職を決意しました。これも電子回路設計の環境の厳しさとの出会い、また教員採用を働きかけて頂いた指導教員との出会いが小生の人生を修整してくれたのです。

立命館大学への奉職以来、実験教育、回路論の講義、計測工学の講義と、企業での経験を元にして学生と接触してきました。その傍ら、自身および大学院学生の研究テーマとして振幅密度を測定する波高分析器との出会いがありました。デジタルデータの累積機能とADコンバータを複合させた測定器で、ほとんどの測定器がアナログ計測が主流であって、メインフレーム計算機がやっと主要な大学に配置され始めた時機です。今日では当然ですが、デジタル計測器に限られた分野にしか存在しなかった時代です。当然、物珍

しさもあって、波高分析器の有効活用法の開発という、ニーズとシーズが逆転した研究テーマに携わることになりました。計測対象がランダムの現象に適合できそうかどうかで、身近なランダム現象として、道路の走行する個々の車両の走行速度に思い至ったのです。もっともこの思い入れは間違っていたのですが、ともあれ、当時の流行のようなテレビジョン活用による「画像計測技術の活用による交通流計測」を掲げました。このテーマが小生のその後の主要研究テーマの始まりで、電気工学科における小生の新たな研究テーマとの出会いだったのです。

この研究テーマ設定によって、学生諸君からは身近な交通流現象の測定器開発に携われるとの希望が寄せられ、多くの学生との出会いの場となりました。ここでの出会いは小生の研究を進める原動力にも成りました。当初はテレビジョン画面上に配置した光電素子によって自動車の走行速度を測るという原始的な方法でしたが、学生との共同作業の中から、ビデオ信号の抽出、抽出タイミングの設定方法など色々なアイデアが寄せられ、学術論文として発展していった内容にも恵まれました。これも学生との出会いの中から生まれた結果だと思っています。この成果が交通流解析を専門とする教員との出会いの場となり、自身の研究テ

マの発展にも繋がっていったのです。共同研究の過程では、「なぜ交通渋滞が起こるの?」「車両速度はランダムではなく、規則性を持っているので交通流状態の推定が可能である」などの成果に結びつけることができました。

一方、交通流計測システムの構築ではパソコンをベースにしたデジタルシステムの導入が容易になり、フーリエ解析のリアルタイム化の実現も可能になり、車両認知精度の向上や車両速度計測にも展開可能であることを、小生が出会った学生から提案されました。この課題が、小生の現在の研究課題ともなっているのです。

このように振り返ってみると、人との出会い、課題との出会い、が如何に大切かと考えさせられます。私の場合はいずれの面でも、いい出会いに恵まれていたと想っています。また立命館大学との出会いも、小生にとって、いい出会いに恵まれておったのかも知れません。ただ、「出会い」はいつでも存在するのですが、こちらからも迎え入れる気構えが在ってこそ成就するのかも知れません。また、物事を楽天的に捉えることも必要でしょう。定年退職を目前にひかえて、やっとこのことに気づいたように想えるのです。これからは「いい出会い」に巡り会えるようアンテナをしっかりと建てて余生を楽しんでいく所存です。

# 学生時代の回顧

谷川原

博士後期課程  
誠

私が立命館大学の電気電子工学科に入学したのはちょうど十年前、一九九九年の四月でした。学部生の四年間、博士前期課程の二年間を経て、二〇〇五年四月から就職した私は、昨年の四月から再び立命館大学の博士後期課程へと進学することになりました。会社に勤めながら社会人と学生の二足の草鞋を履かせていただいております、会社での業務と学生としての研究を切り分けながら、充実した日々を過ごしております。

この度は幸運にも現在に至るまでの経緯を回顧する機会を与えていただき、自分自身を見つめ直し、振り返るよいきっかけになると考え、お話をさせて頂く事と致しました。

理工学部の入学当時は、これから始まる大学生活への期待と新しい環境への不安を抱えていました。初めての一人暮らしで料理や掃除もろくにできず、生活するのに苦労していた事を思い出します。生

活に慣れてきた頃からは、アルパイトやサークル活動などに参加するようにになり、大学以外での交流が増えてたくさんの人と関わるようになり、様々な人の考え方や行動を知ることができ、人として成長できたと思います。高校まで内気だった私が明るく社交的になれたのは、学生の頃に出会った友人のおかげです。共に悩んで競って笑いながら、かけがいのない時間を過ごせました。今でも年に数回は集まって相談したり、当時の思い出話で盛り上がります。

研究室に配属されてからは、私の学問への意識が大幅に変わりました。学部時代の勉強不足もあって、はじめは全く研究室のゼミについていけませんでしたが、わからないことがあれば、夜遅くまで考え、先輩からのアドバイスを頂きながら勉強していました。そこで、あきらめずにわかるまで検討することですぐに研究の深さとおもしろさを発見していきました。研究

テーマが決まってからは、夜遅くまで目標に向けて試行錯誤を重ね卒業研究を完成させました。

私の研究テーマはGPSを利用したナビゲーションにおけるアルゴリズムの研究でした。もともと数学が好きで確率システム、制御工学を土台とした杉本研究室を選択したのですが、研究室配属前の研究紹介で、当時、世間ではあまり認知されていなかったGPSの研究、地上二万kmの衛星からの電波を受信し、いつでもどこでも世界中で利用できる。国際学会での研究発表といったスケールの大きな研究テーマに魅力を感じ、杉本研究室を選択したことを覚えております。この選択が今の私の原点となり、現在もGPSやナビゲーションの仕事に就き、研究室で養った知識と技術を活用し、活躍の場を与えていただいております。

強会を通して、スケジュール管理、担当等を明確にするなど、仕事としての研究の進め方や、研究の目標、研究を利用する立場の考え方を学びました。社会人の方と接することによって研究の幅が広がり、さらに研究室での研究内容に対してやりがいやおもしろさが更に増し、仕事として取り組みたいと思うようになっていきました。

より専門的な知識を身に付けたらと思い博士前期課程へ進学してからは、企業との共同研究や勉強会、学会への参加を実施し、様々な場所へ行かせていただきました。学生だった私にとって、様々な方々と交流させていただいたことが社会のしくみを知る貴重な経験となりました。企業との共同研究や勉

学生時代を振り返り、立命館大学で一番の大きな出来事は国際学会への参加です。私にとって国際学会が初の海外旅行にもなり貴重な体験をさせていただきました。研究室では、国内、海外問わず頻りに学会へ参加しており、学会に参加することで情報の交換をして交流を増やしたり、研究成果を人に伝えることの難しさを覚えまし

た。初の海外(学会)へは先輩の発表の補助として参加しました。そこで、国際学会のスケールの大きさに驚き、海外の教授や有名な研究者と出会って興奮しました。翌年は自分が発表しようとして心な

に、英語が不得意で不安もありましたが、周りの人に助けられながら突き詰めて研究したことで、同じ国際学会で自信を持って発表ができ、無事に終えることができました。

した。終わってからの観光が非常に楽しかったのが今でもよく思い出します。

研究室では、勉強は人に教えることの難しき、自ら納得するまで考えることの大切さを学びました。この経験を通じ、自分に自信を付けたことで職場でも積極的に発言できていると思います。働いてからは、大学での研究における環境のすばらしさを知り、もっと勉強しておけばよかったと感じます。

この十年を振り返っただけでも自分が本当にたくさんの人達に支えられてきたことが実感できます。立命館大学で得てきた経験は、今日の私を形成する上でかけがいの無い財産です。お世話になった方々のご好意を無駄にしないためにも、今後を着実に精進を重ねて行きたいと考えております。

最後になりましたが、このような表現の機会を頂きましてありがとうございます。また、学びの機会を与えてくださいました。杉本先生、久保先生をはじめ、ご指導、ご支援頂いた先輩、友人、後輩、家族の皆様には、今後の自分の活躍をもって感謝の意を表していきます。

二〇〇八(平成二十)年度 電子システム系卒業生進学・就職状況

二〇〇九年三月に終了した大学院生、卒業した学部学生の進路・就職状況は別表にあげたとおりとなりました。電子システム系三学科(電気電子工学科、電子情報工学科、電子情報デザイン学科)の全体で見ますと、大学院博士前期課程(修士課程)一四三名の内、二名が大学院後期課程に進学し、就職した者は一三五名、活動中(その他含む)は六名となっています。進学・就職決定率は九六%となっています。学部学生では、三学科全体二六三名のうち、大学院博士前期課程(他大学院大学を含む)に進学したものは一六名(四四%)、就職したものは一二三名(四七%)、活動中(その他含む)は二四名(九%)となっています。ここ数年、学部学生の半数弱が大学院に進学するという傾向が続いています。就職先企業のうち、電気・電子・機械系の企業数は五四%、全就職者の人数比では六六%を占めています。ここ二、三年、自動車関連が人気を集めており、自動車本体と部品メーカーをあわせてと本年度は一社になっていきます(自動車部品は表では電気・電子・機械系に分類されています)。企業の採用方針としては、成績・人物に加え、職務と応募者の能力のマッチングを重視するところが増加しており、学生とのマッチングをはかるため、事前面談や予備選考を行うところが増えてきています。この傾向は大学院生の採用に強くみられます。これらのことから、事前選考の広がりや早期化の傾向がますます顕著になってきています。また、厳選主義であることに変わりはないが、採用予定数に達しなくてもレベルが低ければ採用しない企業が多くなってきています。さて、最近になってご承知のとおり、の世界レベルでの急速な経済の停滞、景気の冷え込みによって、雇用情勢が急激に悪化してきています。幸いなことに、この現象は本年度の就職が山場を越え、ほとんどの学生の進路が決定した後に起きたものであり、本年度の就職活動に対して深刻な影響を与えるというまでには至りませんでした。また、問題となっていては内定辞退の強制などは取り消しや、内定辞退の強制などは現時点では起きていません。ただ、二〇〇九年度の、これから始まる就職活動に対しては昨今の経済情勢が少なからず影響がしてくるものと懸念されています。企業は、採用人数の絞り込みとこれまでにも増して厳選主義が強くなるものと思われれます。諸先輩におかれましては今後ともよりいっそうの後輩に在学生へのご指導、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。(就職委員 寺井秀一)

景気の冷え込みによって、雇用情勢が急激に悪化してきています。幸いなことに、この現象は本年度の就職が山場を越え、ほとんどの学生の進路が決定した後に起きたものであり、本年度の就職活動に対して深刻な影響を与えるというまでには至りませんでした。また、問題となっていては内定辞退の強制などは取り消しや、内定辞退の強制などは現時点では起きていません。ただ、二〇〇九年度の、これから始まる就職活動に対しては昨今の経済情勢が少なからず影響がしてくるものと懸念されています。企業は、採用人数の絞り込みとこれまでにも増して厳選主義が強くなるものと思われれます。諸先輩におかれましては今後ともよりいっそうの後輩に在学生へのご指導、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。(就職委員 寺井秀一)

I. 卒業生・進学者・就職者一覧

2009年1月6日現在

Table with 6 columns: 卒業生, 進学者, 就職者, 活動中, その他. Rows include 大学院(電気電子工学科), 大学院(電子情報工学科), 大学院(電子情報デザイン学科), 電気電子工学科, 電子情報工学科, 電子情報デザイン学科, 合計.

II. 就職先一覧

(大学院・修了生の就職先も含む)(順不同敬称略)

Table with 2 columns: 業種, 企業名. Rows include 電気・電子機械, 電力・ガス, 自動車, 運輸・通信, 印刷, 情報・システム, その他.

### 同窓会だより

#### 昭和二十年卒同窓会



工学部の歴史を紐解くと一九九二年版の校友名簿にも記載されている通り大正四年に第一回の卒業生が巣立った電気工学講習所から昭和十四年立命館日満高等工科学校を経て昭和十八年立命館大学専門部となったその年の入学者です。一年生二組で八十名、正規の勉強は翌十九年六月まで、その後は二組に別れて一組は近畿の電話局に他の一組は岐阜県大垣市の住友通信工業大垣製作所へ。私はその大垣班に参加（その間に大学は全て専門学校となる）翌年八月の終戦と同時に学徒動員解除により復学、戦後の混乱の中で授業もなく故郷へ引き上げ、卒業証書は立命館専門学校工学科電気工学科、資格は電気主任技師第二種を卒業証書とともに頂いた。また、入学時に満州国の委託生（生徒の半数はこの委託生で卒業後には満州国に赴任する）であったため、国からの委託料を頂いていた。このような時代を共に生活をした友も昭和五十年頃に第一回のクラス会（参加者四十数名）を最初として今日まで三十数回続けて来たが、今回は京都二条城近くの弥生会館にて開催

動員当時の思いで話にもりあがったが参加者は数名までになってしまった。年月の流れを感じる。次回は京都北白川温泉での予定。  
(杉嶋 儀正 記)



#### 昭和三十二年卒同窓会



時の流れは速いもので、あっという間に一年が過ぎ去り今年もまた同期会の季節となりました。今後は皆さんが集まりやすい場所で開催しようとの申し合わせから昨年のエクシブ八瀬龍宮に続いて今年には新都ホテル（京都）で開催することになりました。

総会は二十二名が参加して小幹事の司会で始まり、黒田幹事の挨拶、塩山幹事から事業報告、澤田幹事から会計報告、黒田幹事から監査報告があり、満場一致で可決されました。また本総会に寄せて川口総長・山中校友会会長の祝電をいただきました。事務局からは学園の近況を記した資料をいただき配布しました。

引き続き上林幹事の司会で懇親会に移りました。懇親会では冒頭松田浩章関東立電会会長の挨拶があり、来賓として前田稔夫先生からお祝いとお言葉をいただき、苜屋幹事の乾杯でスタートしました。

ところで私達も来年はいよいよ七十五歳になりますことから今回の話題は、何といても「長寿」だの「後期高齢者」だの「もみじマーク」だのといった年齢的な差



別問題に集中しました。急に年寄り扱いされることへの戸惑いが怒りとなり渦を巻き、懇親会会場にはにぎやかな花が咲き乱れました。私達はまだまだ元気です。気持は若者そのものです。

さて名残は尽きませんが時間の関係もあり、松添幹事の締めでお互いの健康を祈念し、次回平成二十一年十月廿三日（金）の再会を約して散会しました。今回は都合悪く欠席された方も次回には元気でぜひ参加してください。  
(松井 新三 記)



立命館大学32電友会 平成20年10月24日 於 新・都ホテル



昭和三十八年卒

「命立会」開催

我々、立命館大学理工学部電気科を昭和三十八年に卒業した仲間たちは、卒業時以来、まったく休会することもなく年一回の同窓会を継続し強い絆を結びつつ今年度（平成二十年十一月）開催で四十五周年を迎えることができました。

当会は、卒業と同時に大阪近辺在住の学生時代から気の合った仲間がお互いに異なる企業に就職したのだから……と、いわゆる異業種交流的に情報交換をしたり仕事面での協力をしたりと友好的な付き合いがベースとなり、その名を「命立会」と名付け同窓会が発足しました。その後、何処からともなく一人増え、二人増え、と自然発生的にその輪が広がり、最近では、現役を離れ互いに時間的にも余裕ができたのか、中国旅行、恵那峡、石和温泉、と足を延ばして非日常的な楽しみを味わいながら近況報告や思いおもしろい話に花を咲かせながら年一回の歓談のひと時を過ごしております。

この記事をご覧になった昭和三十八年卒の電気科の皆様、私も参

加しようと思われる方はぜひ仲間にお声をかけて下さい。お待ちしております。

(楠亀 清司 記)



南会長 活動報告

一、平成二十年六月二日（土）ホテルグランヴィア京都での立命電友会総会に於て、第五代会長に選出され就任挨拶。

二、平成二十年七月四日（金）東京都港区高輪の日立和彊館

での第九回関東立電会に出席し祝辞と新任挨拶。松田会長他役員の方々と懇談

三、平成二十年十月十三日（月）

京都タワーホテルに於て立命館大学理工系同窓会連絡協議会平成二十年度第一回役員会に出席し、副会長に選出され新任挨拶と各同窓会（機友会、建設会、応化会、数物会、情報会）役員の方々と懇談。

四、平成二十年十月十八日（土）

立命館大学BKIC内ローム記念館に於て、第四回数物会総会に出席し祝辞と新任挨拶し、中川会長、岩根副会長と懇談、北尾応化会会長他の役員の方々と意見交換。

五、平成二十年十一月一日（土）

ホテルグランヴィア京都に於て、第二回同窓会連絡協議会役員会が催されましたが、千葉幕張での技能五輪大会に招待されていまして出席した為、山下副会長に会長代理として出席して頂きました。又、同日大学校友会総会も開催されましたが、同じく副会長に代理出席をお願いしました。

学系便り

平成二十一年度

電子システム系の主な役職者

電気電子工学科

学科長 杉本 末雄

就職委員 服藤 憲司

電子光情報工学科

学科長 小野 雄三

就職委員 森本 朗裕

電子情報デザイン学科

学科長 福井 正博

就職委員 山崎 勝弘

【退職】

中西 恒彦 教授

平成二十一年三月三十一日、定年退職。

【新任】

谷口 一徹

平成二十一年四月一日、電子情報デザイン学科助教に着任。

訃報

卒年 氏名

昭和15年 黒川 秀夫 平成20年2月26日

昭和15年 坂倉 定男 平成20年6月4日

昭和18年 中窪 宏 平成13年2月17日

昭和31年 藤井 春彦 平成20年11月10日

昭和34年 加島 喜雄 平成20年7月12日

昭和45年 迫田 喜治 平成20年8月

事務局便り

立命電友会会報三十三号の発行にあたり、急な原稿依頼にもかかわらずご快諾頂き、執筆いただきました皆様には心より感謝申し上げます。

事務局では、同窓会開催のお手伝いをさせていただいております。案内の発送及び出欠の取りまとめ等を致しておりますので、どうぞご連絡をお待ちしております。今回も同窓会の件でメールのやり取りをしていました所、出身地が同県ということがわかり嬉しくなりました。

この会報が皆様に届く頃、学内の桜も見ごろかと思えます。とてもきれいですので、近くへお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。いつまでもご案内がお届けできますように、住所変更の届けを宜しくお願い申し上げます。

(宮林)

立命電友会連絡先

〒五二五-八五七七

滋賀県草津市野路東一-1-1

立命館大学理工学部電子システム系内

立命電友会事務局 高山 茂

宮林(月・木)

電話 〇七七(五六)二六六二

FAX 〇七七(五六)二六六三

E-mail: denyukai@ml.ritsumei.ac.jp

http://www.ritsumei.ac.jp/se/ry/denyukai/ (会報の題字は久保之俊氏)